

今号の作業

電飾ギミックのチェックと、サイドスタンド&ステップを取り付ける



今号では、65号で組み立てたディスプレイベースと連動する、モデルの電飾ギミックをすべてチェックする。その後、サイドスタンドと左右ステップをメインフレームに取り付ける。電飾チェックでトラブルがあった場合には、指示されたSTEPにさかのぼり、トラブルの原因を解消してから組み立て作業を行おう。

今号のパーツ



- ① サイドスタンドピン×1
- ② サイドスタンド×1
- ③ サイドスタンドスプリング×1
- ④ ビス(Nタイプ)×2
(※1本は予備)
- ⑤ ステップラバー×2
- ⑥ ステップアーム×2

用意するもの

・メインフレーム(72号で組み立てたもの)
・ディスプレイベース(65号で組み立てたもの)
・イグニッションキー(64号で使用したもの)
・ビス(Aタイプ)×2(68号で提供したもの)
・単4形アルカリ乾電池×6(モデル本体用に3本、ディスプレイベース用に3本)
・ディスプレイベースを覆う大きさや強度のある半透明の板(衣装ケースの蓋など)
・電子部品に関連する取り付け作業を行ったマガジンの該当号(47, 48, 65, 66, 72号)

使用する道具

- ・+(プラス)ドライバー(1番)
- ・六角レンチ(10号で提供したもの)

あると便利な道具

- ・細いラジオペンチ
- ・ピンセット

※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

電飾ギミックをチェックするための準備



電池をセットする前に
キーを抜いておく

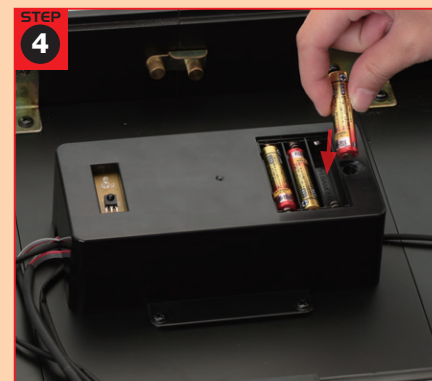
メインフレーム左側の燃料タンク下にテープで仮留めしておいたイグニッションキーを抜き取っておく。電池をセットする前に抜き取っておかないと、トラブルの原因になるので注意すること!



72号で組み立てたメインフレームを用意し、電池ボックスカバーを固定しているビスを1番の+(プラス)ドライバーで緩め、メインフレームから取り外す。



単4形アルカリ乾電池3本を用意し、電池ボックスにセットする。電池の向きを間違えないよう、ボックス内側の向きを示した刻印を確認してからセットしよう。なお、②で取り外した電池ボックスカバーは、チェックが完了するまで取り付ける必要はない。



65号で組み立てたディスプレイベースを用意し、センターボックスの電池ボックスカバーを開け(開け方は63号の組み立てガイドを参照)、単4形アルカリ乾電池3本をセットする。③と同様、内側の刻印を確認し、電池の向きを間違えないよう注意しよう。

<乾電池の取り扱い>

電池ボックスから乾電池を取り外しにくい場合は、木製カプラスチックの棒をご使用ください。ドライバーなど金属製の棒は、乾電池の破損やショートのおそれがありますので、ご使用にならないでください。
また、電飾ギミックを長期間ご利用にならず放置されますと漏液の原因となりますので、乾電池は取り外しておいてください。

STEP
5

IRセンサーの位置を合わせる



スイッチの位置を確認

衣装ケースのふたなど、半透明で十分な大きさで強度のある板を用意し、ディスプレイベースの上に載せ、モデルをその上に静かに置く。このとき、モデル下部のオイルパンに組み込まれたIRセンサーウィンドウが、ディスプレイベース内のセンターボックス上面左にある、センサーの真上になるよう位置を調整する。また、スイッチパネルの各スイッチの位置が写真と同じになっていることを確認しよう(違う場合は写真に合わせて操作しておく)。

STEP
7

赤い●



差し込んだイグニッションキーを右に回し、キーシリンダー左側の「赤い●」とキーの面が直線になるよう合わせる。なお、この操作時にスピーカーから異音(ノイズ)が出ることもあるが問題はない。

STEP
6



キーの向きに注意

64号で使用したイグニッションキーを用意し、スイッチパネル左側のキーシリンダーに写真の向きで差し込む。

STEP
8



キーの向きに注意して真すぐに差し込む

①で抜き取ったイグニッションキーを再びキーシリンダーに差し込む。イグニッションキーの穴を左側にし、シリンダーに対して真すぐに差し込む。これで電飾ギミックをチェックする準備が整った。

各ギミックのチェック

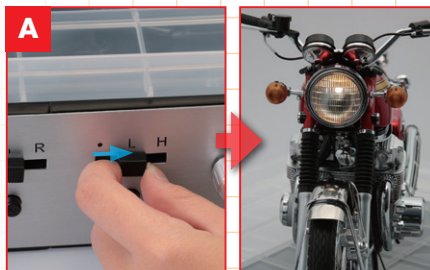
組み込まれた電飾ギミックは、以降の手順でチェックを行う。もしも電飾ギミックが作動しない場合は、各本文項目に示した号の組み立てガイドを参照し、パーツの取り付け状況を再確認しよう。



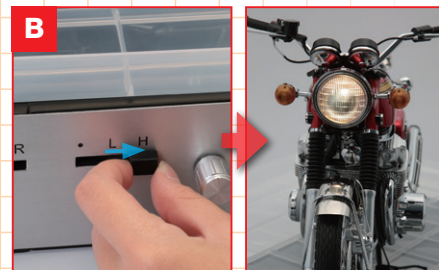
ピンセットでソケットの縁を少し開く

制御基板に取り付けたコネクターのケーブル部分を引っ張ると、断線などのトラブルを起こしてしまう。コネクターを取り外す必要がある場合は、ピンセットを使ってソケットの縁を少し開き、細いラジオペンチを使って引き抜こう。

【ヘッドライトのチェック】

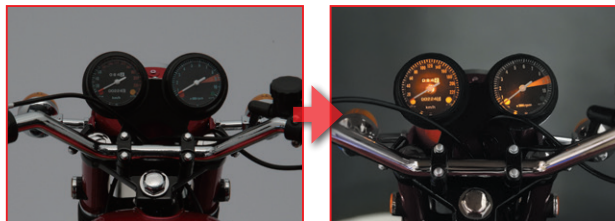


スイッチパネル右側のスライドスイッチをつまみ、「L」の文字の位置まで操作する。このとき、ヘッドライトが写真のように暗く点灯すればOKだ。消灯するにはスライドスイッチを一番左に戻す。



スイッチを「H」の文字の位置まで操作すると、ヘッドライトが明るく点灯する。消灯するにはスライドスイッチを一番左に戻す。
AB共に、またはいずれか一方が点灯しない場合/65号で取り付けた「O」3PINのコネクタ、72号で取り付けた「A(2PIN)」のコネクタそれぞれの接続状態を再確認しよう。

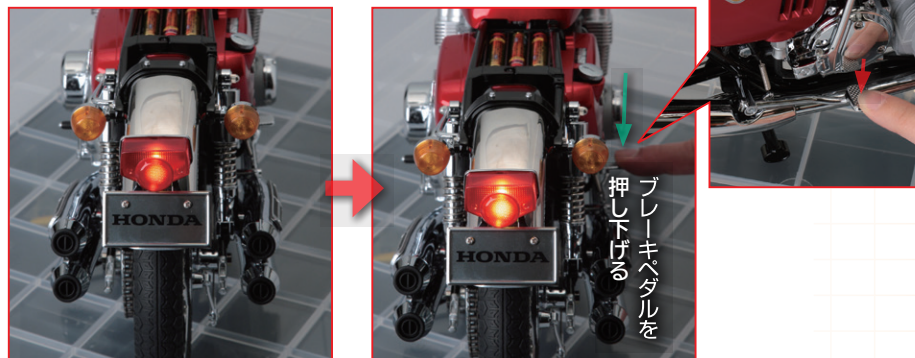
【メーターパネルのチェック】



スピードメーターとタコメーターは、ヘッドライトのスイッチを「L」または「H」へ操作すると(上の【ヘッドライトのチェック】参照)、それに連動して点灯する。
点灯しない場合/72号で取り付けた「C(4PIN)」のコネクターの接続状態を確認しよう。

※ヘッドライト、メーターパネル、ブレーキランプ、ウインカー(すべて灯火系)は、スライドスイッチをオフ状態に戻さずに、スイッチパネルのイグニッションキーを「OFF」にしても消灯しません。また、モデル側のイグニッションキーを抜けば、スイッチパネルの操作に関係なくすべて消灯します。

【ブレーキランプ(テールライト)のチェック】

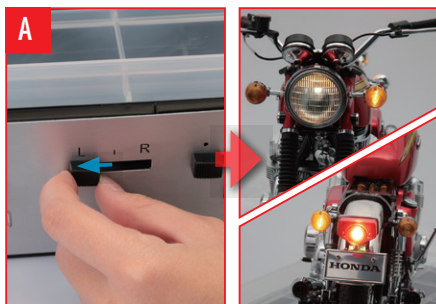


ブレーキランプ(テールライト)は、ヘッドライトのスイッチを「L」または「H」へ操作すると(前ページの【ヘッドライトのチェック】参照)、それに連動して“暗め”に点灯する。その状態でモデル右側面下のブレーキペダルを押し下げると、ブレーキランプが明るく点灯する。消灯するにはスライドスイッチを一番左に戻す。なお、ヘッドライトが点灯していない状態であっても、ブレーキペダルを操作すれば明るく点灯する。

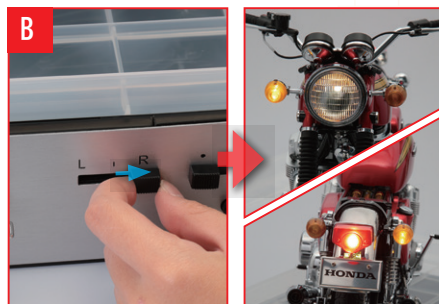
また、スイッチパネルのイグニッションキーの操作でも点灯する。キーを右に回し、“黒い●”に合わせると「パーキング状態」となり、ブレーキランプが明るく点灯する。消灯するにはイグニッションキーを“赤い●”または“OFF”に合わせる。

これらの操作を行ってもブレーキランプが点灯しない場合/48号の組み立てガイド ⑬～⑳を参照して、リヤブレーキスピンドルとスイッチボックスの取り付け状況を確認する。また、66号で取り付けした「H(2PIN)」のコネクターと「E(2PIN)」のコネクターの接続状態も確かめること。

【左右ウインカーのチェック】

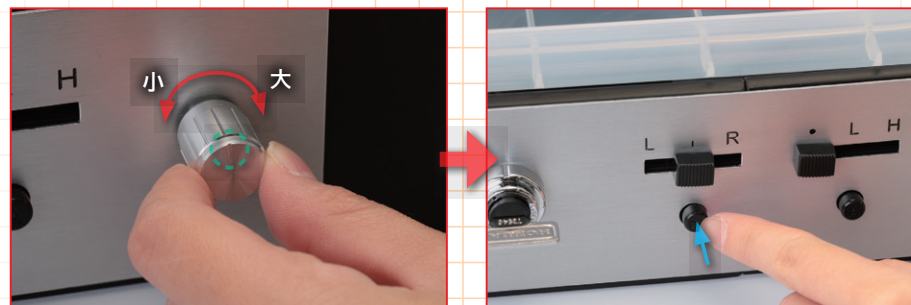


スイッチパネル左側のスライドスイッチをつまみ、「L」の文字の位置まで操作する。このとき、モデル前後の左ウインカーが点滅すればOKだ。消灯するにはスライドスイッチをセンターに戻す。



スイッチを「R」の文字の位置まで操作すると、今度はモデル前後の右ウインカーが点滅する。消灯するにはスライドスイッチをセンターに戻す。AB共に、またはいずれか一方が点滅しない場合/65号で取り付けした「N」3PINのコネクター、72号で取り付けした「B(4PIN)」のコネクターそれぞれの接続状態を再確認しよう。

【ホーンスイッチのチェック】



スイッチパネル右側にあるボリュームノブを回し、写真で示したマーク部分が真上になるよう調整する。なお、ノブを右に回せば音量が大きくなり、左に回せば小さくなる。チェックを行う状況に合わせて調整しよう。

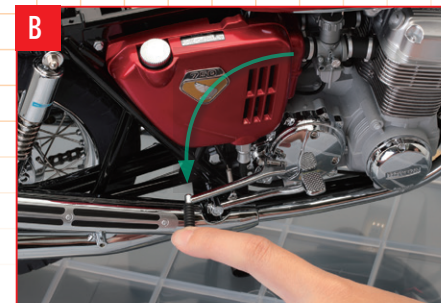
スイッチパネルの左下にあるボタンスイッチを押し、クラクションが鳴ればOKだ。鳴らない場合/65号で取り付けした「M」3PINのコネクターと「K」2PINのコネクターそれぞれの接続状態を確認しよう。

【スタータースイッチとキックスターターのチェック】



スイッチパネルの右下にあるボタンスイッチを押し、スピーカーからエンジン始動音が鳴ればOKだ。ボタンを1回押すとエンジン始動(セルスターター音)、2回押すと“空吹かし”のエンジン音になる。音を止めるにはスイッチパネルのイグニッションキーを“OFF”にする。

鳴らない場合/65号で取り付けした「M」3PINのコネクターと「K」2PINのコネクターそれぞれの接続状態を確認しよう。



エンジンの始動音は、モデル側のキックスターターによって鳴らすことも可能。スターターペダルを手前に開き、後方に押し込むとエンジン始動音が鳴る。このサウンドは、スタータースイッチで聞く音とは異なり、キックスターター専用のものだ。音を止めるにはスイッチパネルのイグニッションキーを“OFF”にする。

鳴らない場合/47号の組み立てガイド ⑦～⑳を参照して、キックスターターアーム付け根のスイッチの状態を確認する。また、65号で取り付けした「M」3PINのコネクターと「K」2PINのコネクター、66号で取り付けした「F(2PIN)」のコネクターそれぞれの接続状態を確認しよう。

電飾ギミックのチェックを終えたら

問題なく作動することを確認したら、スイッチパネルのスライドスイッチをすべてオフ状態にし、ギミックが作動していないことを確認した後、スイッチパネルのイグニッションキーを“OFF”に合わせる。さらにモデル側のイグニッションキーを抜き、最後にモデルとディ

スプレイベースにセットした電池を抜く。その後、次の手順に従って燃料タンクをメインフレームに取り付けよう。また、これまでの組み立てで固定が不十分なパーツや調整が必要な部分があれば、多用途接着剤や低白化タイプの瞬間接着剤を使って固定しよう。



燃料タンクの両サイドにはめ込んであるロゴマークを取り外す。タンク内側に突き出しているピンを外側へ押し出せば簡単に外すことができる。



72号で取り付けしたフロントフォークから、ステアリングシステムを抜き取る。ステアリングシステム下を固定しているメタルナットを取り外し、フロントフォークが落ちないように押さえた状態で抜き取るようにしましょう。



メインフレームとフロントフォークをしっかり押しさえ、フロントフォークを前側に5mm程度ずらす。



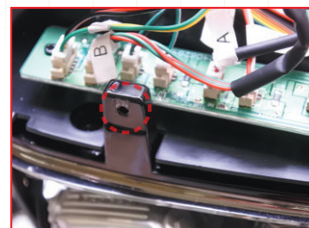
制御基板につながっている各ケーブルを軽く押さえ、燃料タンクをかぶせてメインフレームに取り付ける。このとき、燃料タンクは「フロント側」を先にはめ込み、ケーブルを挟まないよう注意しながらリヤ側をかぶせる。なお、燃料タンクが軽くはめ込めない場合は無理に押し込まず、後の号で紹介する対処方法に従って作業しよう。



フロントフォークを元の位置に戻し、ステアリングシステムを差し込んで、下部をメタルナットで固定する。



68号で提供したAタイプのビスを用意し、写真で示した燃料タンク側面のビス穴へセットする。このビスは、メインフレームの四角いポスト側面のビス穴にねじ込まれる(上写真の赤丸参照)。このビス穴の位置が合わない場合は、メインフレームに取り付けた樹脂ワッシャー付きビス(48号の組み立てガイド⑫⑬、同じく51号の⑦⑧参照)を緩め、タンクモールの高さを調整して位置を合わせよう。



1番の+(プラス)ドライバーを使ってAタイプのビスをねじ込む。

× **組み立て済みパーツの固定と調整について** ×



同じ要領で、燃料タンク右側面の写真の位置のビス穴にもAタイプのビスをねじ込んでおく。



取り外した左右のロゴマークを差し込んで取り付ける。ロゴマークには、裏面に右用(R)と左用(L)を示す「R」と「L」の刻印があるので間違えないようにしましょう。

前後のウインカーが外れやすい場合



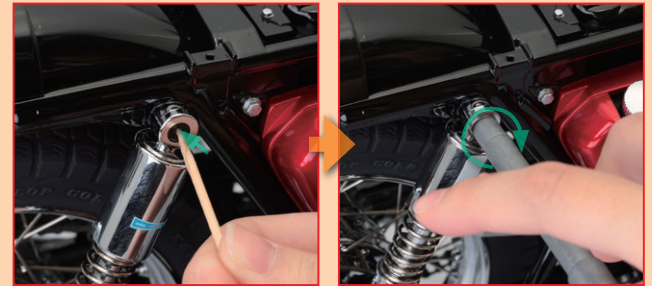
つまようじの先端に多用途接着剤を少量付け、取り付け穴の内側に塗布してからウインカーを取り付ける。その後、接着剤が硬化するまで、マスキングテープを使ってウインカーが動かないよう仮留めしておく。
 ※多用途接着剤は硬化後も弾性を維持するので、多少の衝撃なら吸収できる。瞬間接着剤は衝撃に弱く、接着力も強力なので、モデルが転倒した場合にパーツを破損する可能性が高くなるので使用しないようにしましょう。

61号で取り付けしたRタイプ(STEP4)とWタイプ(STEP23)のビスが抜けてしまう場合



まずリヤフェンダーの樹脂パーツとメインフレームの間に“すき間”が開いていないか確認しよう。すき間が開いている場合は左右フレーム後端部を挟むように押さえてすき間をなくし、その状態でビスをねじ込む。RタイプとWタイプをねじ込む穴は、メインフレームの穴ではなく「リヤフェンダーの樹脂パーツ」に設けられた穴なので、そこにビス先端を合わせてねじ込もう。
 ※見やすくするために片側のウインカーを外して撮影しています。実際作業する上ではウインカーを付けたままでも構いません。

61号のSTEP19、24で取り付けした左右リヤダンパーを固定するFタイプのビスが緩い場合



つまようじの先端に多用途接着剤を少量付け、ビスの取り付け穴の内側に塗布する。その後、5分ほど放置し、接着剤がある程度硬化してからビスをゆっくとねじ込む。

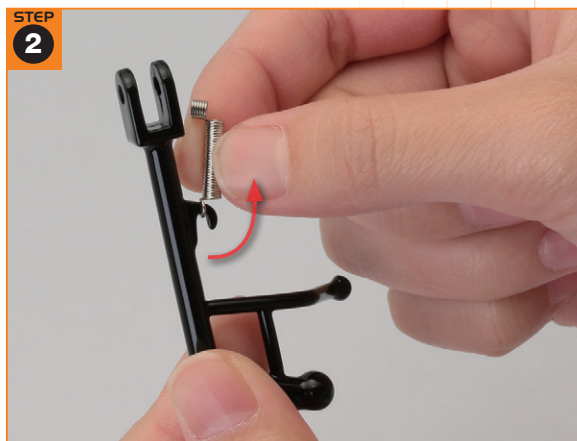


ビス穴を傷めてしまった場合は、リヤフェンダーの裏側から瞬間接着剤を使って接着するといい。

今号の組み立て STEP 1



②サイドスタンドと③サイドスタンドスプリングを用意し、写真のように持つ。サイドスタンドスプリングの向きに注意しよう。



サイドスタンドスプリング片端のリング状になっている部分を、サイドスタンド側面のつめ部分に通し、写真のように上方方向に引き上げる。



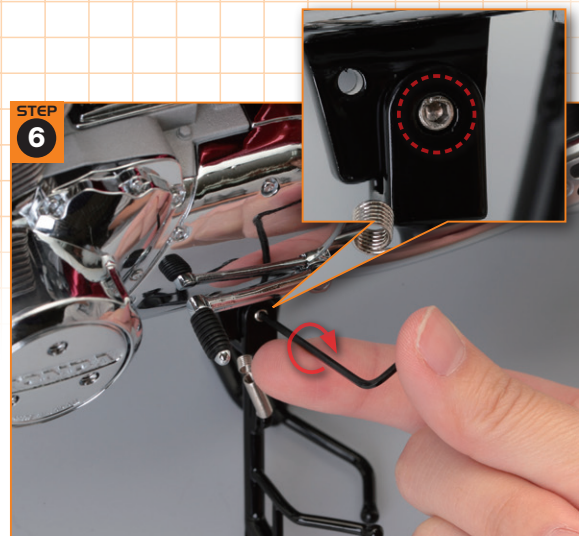
メインスタンドを使って立てたモデルの左側面下にある取り付け位置に、サイドスタンドを写真のようにセットする。



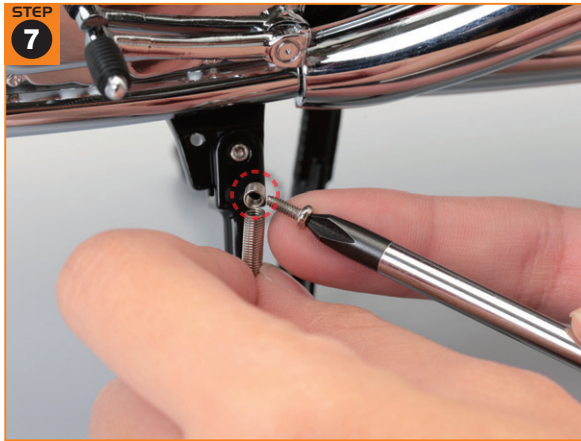
サイドスタンドの取り付け部分はコの字形になっている。そこにメインフレームの取り付け部を差し込むようにして、穴の位置を合わせる。



10号で提供した六角レンチの先端に、①サイドスタンドピンを差し込む。続いて、④で位置を合わせた取り付け穴に、サイドスタンドピンをセットする。



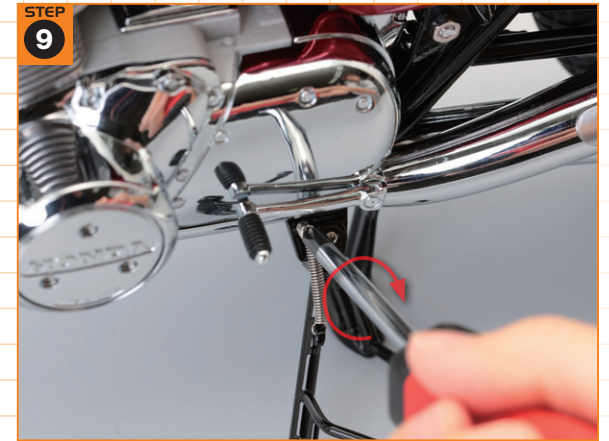
六角レンチを右に回し、サイドスタンドピンをねじ込む。サイドスタンドピンの後端部分と、サイドスタンドの外側の面が“ツライチ”になればOKだ。



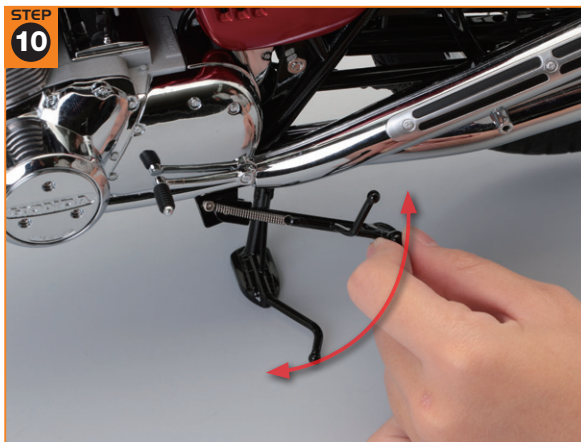
④ビス(Nタイプ)を1番の+(プラス)ドライバー先端にセットし、その状態のまま写真で示したサイドスタンドスプリング上部に差し込む。



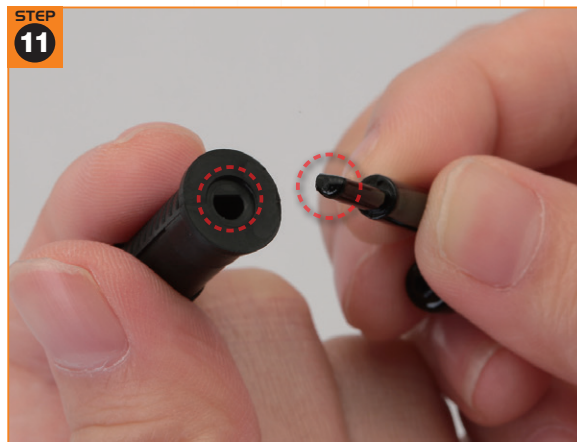
Nタイプのビスが抜け落ちないように指先で保持したまま、ビスの先端を取り付け穴まで引っ張り上げる。サイドスタンドスプリングを引き伸ばしながらの作業となるので、ビスがはじけ飛ばないように注意しよう。



Nタイプのビスを取り付け穴にセットしたら、そのままビスをねじ込む。ビスを差し込んだスプリングが、ビスの頭部分でつぶされない程度にねじ込もう。



サイドスタンドを動かし、出した状態と収納した状態それぞれで維持されることを確認しよう。



⑤ステップラバーと⑥ステップアームを用意し、それぞれの取り付け部分の形状を確認しよう。ステップラバーの片端にはD字形の穴があり、ステップアームの軸部分は、断面がD字形になっている。



ステップラバーの穴に、ステップアームの軸の形状を合わせて真っすぐ奥まで差し込む。これを2セット用意しよう。



組み立てた2セットのサイドステップ。形状は左右とも同じだ。



組み立てたサイドステップのうち、ひとつをメインフレーム左側面下部の、写真で示した穴にセットする。穴の形状はD字形なので、アーム先端の取り付けピンの形状を合わせよう。



サイドステップを真っすぐに押し込み、メインフレームに取り付ける。なお、サイドステップはモデルが転倒した際の衝撃を受けやすいため、あえて外れやすい仕様になっている。外れることにより、サイドステップ自体の破損を防ぐためだ。



メインフレームの右側面下、ちょうどオイルホースの奥に、右側のサイドステップ取り付け位置がある。左側と同じ要領で、組み立てたサイドステップをセットしよう。



サイドステップを真っすぐに押し込み、メインフレームに取り付ける。オイルホースに押されて外れてしまう場合は、ドライバーの先端部分などでオイルホースの形状を調整してから取り付けよう。

今号の完成



これで今回の作業は完了だ。サイドスタンドも可動するようになったので、写真のように斜めに立てておくことも可能になった。ただし転倒しやすいことには変わりはないので、前号同様に両サイドに柔らかいスポンジなどを置いて保管することをお勧めする。